

博士（言語学）学位論文の要約

氏名	佐々木 勲 人
学位論文題目	中国語授与動詞の文法化に関する研究
全文を公表できない理由	論文全体を書籍として出版するため
書名	中国語授与動詞の文法化に関する研究
出版社名	好文出版
発行予定日	2021年3月

1. 本研究の目的

本研究は、中国語の授与動詞とヴォイス構文の関連を文法化の観点から考察したものである。受益文や受動文、使役文、処置文といった有標ヴォイス構文において、ヴォイス標識の役割を担う授与動詞がどのような文法化のプロセスを経てその機能を獲得したのかを比較方言文法の観点から明らかにした。

ヴォイス (Voice) とは、同内容のことを違った声 (形) で表すことにその名が由来するように、典型的には他動詞の能動形と受動形の対立が考察の対象となる。柴谷 2000 は、ヴォイスとは何かという問いに対して、行為が動作主によって意図的にもたらされたのかどうか、そしてそれが他に及んでいるのか、それともその帰結が動作者に影響を及ぼしているのかといった、行為の発生とその展開のあり方を対象とした文法現象であるという包括的な捉え方を示している。このような捉え方に基けば、ヴォイスの考察対象には、能動形と受動形の対立だけでなく、動詞の自他対応や使役形、可能形、やりもらい関係など、さまざまな言語現象が含まれることになる。

これらの現象は多くの言語において動詞の形態の違いとして反映される。そのため、ヴォイスは一般に動詞の形態に関する問題と考えられてきた。しかし、形態変化の乏しい中国語では、ヴォイスの違いが動詞の形態の違いとして現れることはない。そのため、中国語学の分野ではヴォイスという文法範疇が積極的に認識されてこなかった。木村・鷲尾 2008 によれば、Chao Yuen Ren 1968 の *A Grammar of Spoken Chinese* や朱德熙 1982 の『语法讲义』、Li & Thompson 1981 の *Mandarin Chinese* など、代表的な中国語文法書のいずれの目次にも、ヴォイスの章は見当たらないという。近年ではヴォイスに対して“語態[語態]”という訳語をあてることが定着しているが、それが使用されるのはおもに形態変化を備えた他言語の状況を説明する場合であって、中国語の文法研究において“語態”という術語を目にすることはほとんどない。

木村 2000、2003 は、ヴォイスを「動作者と主語の関係を中心に、名詞表現の意味役

割と格表示の対応関係の変更が何らかのかたちで明示的かつ規則的に反映される現象」と定義した上で、中国語にもヴォイスと呼ぶにふさわしい文法現象が存在することを指摘している。本研究は、柴谷 2000 や木村 2000、2003 の観点を共有しつつ、形態変化という手段を持たない中国語において、受益文や受動文、使役文、処置文といった有標ヴォイス構文がどのように構成されるのか、またそれらが相互にどのようなネットワークを形成しているのかを、「与える」という意味の授与動詞がヴォイス標識を担う構文に焦点をあてて検討した。以下、とくに断らない限り、中国語とは“普通话（共通語）”を指すものとし、各地の方言に言及する際は例文の末尾に方言名と地域を記すこととする。

中国語の授与動詞“给 gěi [kɛi²¹⁴]”は、三項動詞として間接目的語と直接目的語を取ることができる。

- (1) 我 给 你 一 本 书。
 I GIVE you a CLA book
 (ぼくはきみに本をあげる。)

(1)において“你(きみ)”は間接目的語として、直接目的語“一本书(一冊の本)”の受取手を表している。“给(与える)”という行為の実現によって、二つの目的語の間には所有関係が成立することになる。「与える」という授与の基本義を表し、間接目的語と直接目的語という二つの目的語を取ることのできる“给”は、語彙的にもまた統語的にも、典型的な中国語の授与動詞であるということができる。

授与動詞“给”は、以下に示すようなさまざまなヴォイス構文において、意味役割の異なる名詞句を導入するヴォイス標識の役割を担う。

- (2) 我 给 你 买 一 本 书。 : 受益文
 I BEN you buy a CLA book
 (ぼくはきみに本を買ってあげる。)
- (3) 我 给 你 看 照片。 : 使役文
 I CAU you look picture
 (きみに写真を見せてあげよう。)
- (4) 我 给 他 打 了。 : 受動文
 I PAS him hit MOD
 (ぼくは彼に殴られた。)
- (5) 我 给 电视机 修 好 了。 : 処置文
 I ACC TV set repair-good MOD
 (ぼくはテレビを修理した。)

(2)では、モノの受取手としての受益者を導入している。ここでの“你(きみ)”は“一

本書（一冊の本）”の受取手であり、二重目的語文における間接目的語の意味役割にほぼ等しい。一方、(3)では使役文における被使役者を導入している。“你（きみ）”は“照片（写真）”の受取手であると同時に、“看（見る）”という行為の担い手でもある。次の(4)では、受動文における動作者を導入している。“打（殴る）”という行為の担い手であるという点において、(3)の被使役者との共通点が見て取れる。(5)はいわゆる処置文であり、動作行為の働きかけの対象である“电视机（テレビ）”を導入している。ここでの“给”は“把[pa²¹⁴]”に置き換えることができる。“修好（きちんと修理する）”という行為によって利益がもたらされるという点で、(2)の受益者との共通点がある。

このように、同一の形態素である“给”が、(2)のように受益者を導いたり、(3)や(4)のように動作者を導いたり、さらには(5)のように対象を導いたりすることができるのはなぜなのか。本研究は文法化の観点からこの問題の解明に取り組んだ。

また、(2)の受益文と(3)の使役文が、意味的にも構造的にもある種の類似性を示唆しているように、(3)の使役文と(4)の受動文の間にも、多くの言語においてそうであるように、構文的な関連が見て取れる。さらに、(4)の受動文と(5)の処置文の間にも、例えば次の(6)のように、受動文にも処置文にも解釈可能な文が存在することから、両者の間には何らかの構文的な関連があると考えられている。

(6) 小偷儿 给 他 捆 起来 了。 朱德熙 1982:181

thief PAS/ACC him tie-up-come MOD

(泥棒が彼に縛り上げられた／泥棒が彼を縛り上げた)

このように、受益文、使役文、受動文さらに処置文といった有標ヴォイス構文が、“给”という授与動詞を介して一つのネットワークを形成していることがわかる。こうしたネットワークがどのように成立したのか、そのプロセスを詳細に検証することが本研究のもう一つの目的である。

ヴォイス構文と授与動詞の繋がりを考える上で、どうしても避けて通ることができないのが方言差の問題である。多くの先行研究が指摘するように、(4)のような授与動詞を用いた受動文は、北方方言ではあまり使われない。近年は共通語における使用例が報告されてはいるものの、太田 1956 によれば、北方方言の一つである北京語には、元来“给”を用いた受動文は存在しなかったという。これに対して、長江以南の東南方言では、授与動詞によって受動文を構成するのが一般的である。授与動詞は東南方言における典型的な受動標識であると言ってよい。詹伯慧 1981:82 が指摘する各地の例を参照されたい。

(7) a. 佢 畀 本 书 我。 [粤语・广州]

he GIVE CLA book me

(彼はぼくに本をくれた。)

b. 佢 畀 狗 咬 亲。 [粤语・广州]

he PAS dog bite MOD

(彼は犬に咬まれた。)

- (8) a. 伊 互 我 一 本 新 册。 [闽语・厦门]
he GIVE me a CLA new book
(彼はぼくに新しい本をくれた。)
- b. 伊 互 人 拍 一 下。 [闽语・厦门]
he PAS someone hit one time
(彼は誰かに殴られた。)
- (9) a. 我 拨 仔 俚 一 本 书。 [吴语・苏州]
I GIVE ASP him a CLA book
(ぼくは彼に本をやった。)
- b. 我 拨 俚 吓 仔 一 跳。 [吴语・苏州]
I PAS him surprise ASP one jump
(ぼくは彼に驚かされた。)
- (10) a. 侬 分 一 本 书 佢。 [客家语・梅县]
I GIVE a CLA book him
(ぼくは彼に本をやった。)
- b. 侬 分 佢 打 e 一 拳。 [客家语・梅县]
I PAS him hit ASP one punch
(ぼくは彼に殴られた。)

詹伯慧 1981 は北方方言に属す西南官話にも、授与動詞を用いた受動文が成立することを指摘している。

- (11) a. 他 把 了 我 一 本 书。 [官话・汉口]
he GIVE ASP me a CLA book
(彼はぼくに本をくれた。)
- b. 他 把 狗 咬 了 一 口。 [官话・汉口]
he PAS dog bite ASP one mouth
(彼は犬に咬まれた。)

従って、授与動詞による受動文は、東南方言だけに見られる現象とは言えない。しかし、そのほとんどが東南方言に集中して観察されることは事実であり、授与動詞が東南方言の典型的な受動標識であることは間違いない。

また、これまであまり注目されてこなかったが、東南方言では一部の例外的な地域を除いて、授与動詞を用いた受益文が成立しない。共通語では(12b)のように、モノの受取

手としての受益者を授与動詞の“給”によって動詞句の前に表示する受益文が成立する。しかし、東南方言では一部の地域を除いて、このような受益文は成立しない。

- (12) a. 我 给 你 一 本 书。 [共通語]
 I GIVE you a CLA book
 (ぼくはきみに本をあげる。)
- b. 我 给 你 买 一 本 书。 [共通語]
 I BEN you buy a CLA book
 (ぼくはきみに本を買ってあげる。)
- (13) a. 我 拨 依 一 只 苹果。 [吴语・宁波]
 I GIVE you a CLA apple
 (ぼくはきみにりんごをあげる。)
- b. *我 拨 依 买 衣裳。 [吴语・宁波]
 I BEN you buy clothes
 (ぼくはきみに服を買ってあげる。)
- (14) a. 我 乞 汝 蜀 粒 苹果。 [闽语・福州]
 I GIVE you a CLA apple
 (ぼくはきみにりんごをあげる。)
- b. *我 乞 汝 画 蜀 张 图。 [闽语・福州]
 I BEN you draw a CLA map
 (ぼくはきみに地図を描いてあげる。)
- (15) a. 侬 分 你 一 粒 苹果。 [客家语・桃园]
 I GIVE you a CLA apple
 (ぼくはきみにりんごをあげる。)
- b. *侬 分 你 买 一 领 襯衫。 [客家语・桃园]
 I BEN you buy a CLA shirt
 (ぼくはきみにシャツを買ってあげる。)
- (16) a. 佢 畀 本 书 我。 [粤语・广州]
 he GIVE CLA book me
 (彼はぼくに本をくれた。)
- b. *佢 畀 我 买 书。 [粤语・广州]
 he BEN me buy book
 (彼はぼくに本を買ってくれた。)

モノの受取手としての受益者は、授与動詞の典型用法である二重目的語文の間接目的語と意味的に共通点が多い。しかし、東南方言においてこの種の受益者を授与動詞によって動詞句の前に表示する受益文は成立しない。この点は、北方方言と東南方言の違いとして注目すべき事実である。受動文や受益文に観察されるこのような方言差はなぜ生じるのか。こうした現象に比較方言文法の観点から合理的な説明を与えることも本研究の目的の一つである。

2. 本研究の特色

文法研究の分野において「中国語」と言ったとき、通常それは北方方言を基礎方言とする“普通话（共通語）”を意味する。誤解を懼れずに言えば、代表的な北方方言である北京語が「中国語」と同義に扱われることも多い。しかし、本研究のテーマであるヴォイス構文と授与動詞の関連を考えるにあたっては、共通語のみを分析の対象とするのは必ずしも有効な研究方法ではない。

その理由の一つには、前節で見たように、授与動詞を用いた受動文はおもに東南方言で観察され、共通語における使用頻度はきわめて低いことが挙げられる。また、授与動詞を用いた処置文が観察される地域が、以下のように呉語、徽語、贛語、湘語など東南方言の北部に集中していることも、もう一つの理由として挙げられる。

(17) a. 我 拨 侬 一 只 苹果。 [呉語・寧波]
I GIVE you a CLA apple

(きみにリンゴをあげよう。) 林・佐々木・徐 2002

b. 侬 拨 房间 打扫 打扫。 [呉語・寧波]
you ACC room clean-clean

(部屋を掃除しなさい。) 林・佐々木・徐 2002

(18) a. 渠 畀 我 一 个 桃。 [徽語・黟縣]
he GIVE me a CLA peach

(彼はぼくに桃をくれた。) 平田主編 1998

b. 尔 畀 门 关 起来。 [徽語・黟縣]
you ACC door close-up-come

(扉を閉めなさい。) 平田主編 1998

(19) a. 把 本 书 把 我。 [贛語・黎川]
GIVE CLA book GIVE me

(ぼくに本をくれ。) 顔森 1993

b. 莫 把 茶碗 打破 了。 [贛語・黎川]
don't ACC cup hit-broken MOD

(コップを割ってはいけない。) 顔森 1993

- (20) a. 把 本 书 你。 [湘语・长沙]
 GIVE CLA book you
 (きみに本をあげる。) 李永明 1991
- b. 把 □ 碗 饭 吃完 哒! [湘语・长沙]
 ACC this CLA rice eat-finish MOD
 (そのご飯を食べ終わってしまいなさい。) 李永明 1991

このように、受動文や処置文において、授与動詞を主たるヴォイス標識として使用するのには、東南方言であって北方方言ではない。北方方言を基礎方言とする共通語では、授与動詞を受動標識や処置標識として使用することは、必ずしも一般的ではないのである。ヴォイス構文と授与動詞の繋がりを考える上で、東南方言の分析を避けて通ることができないのはそのためである。本研究は、近年の方言研究によって蓄積されてきた東南方言の言語資料を十分に活用することによって、共通語のデータだけを見ては知ることのできない授与とヴォイスの繋がりについて考察を行った。

本研究のもう一つの目的は、ヴォイス構文における授与動詞の文法化のプロセスを明らかにすることにある。文法化 (grammaticalization) とは、もともと実質的内容を表していた言語単位が、時間の経緯にしたがって機能語としての文法的役割を担うようになる歴史的変化と定義される。内容語が機能語に変化したり、機能語がさらに別の機能語に変化したりする現象を通時的に解明することが文法化研究の目的である。このような定義に従えば、共時的なデータのみを扱って文法化を論じることは許されないことになる。しかし、中国各地の方言を研究対象とした場合、歴史的に遡って口語資料を入手することはほぼ不可能に近い。では、方言を対象とした文法化の研究は成立し得ないのだろうか。本研究は必ずしもそうではないと考える。各地の方言資料は授与から使役へという文法化のプロセスの異なる段階を我々に示しており、複数の地域の方言資料を総合的に分析するならば、たとえ共時的な資料であっても、文法化のプロセスに合理的な説明を与えることは十分に可能であると本研究は考える。一般に歴史的なアプローチのみが許されると思われがちな文法化の現象に対して、共時的な方言資料に基づいてそのプロセスを解明していくことが本研究の特色の一つである。

3. 本研究の構成

本研究の構成は以下のとおりである。まず第1章では、本論文の目的と研究方法を述べた。本論文のアプローチの一つである文法化の観点について著者の見解を示したのち、授与動詞とヴォイス構文の関係を明らかにする上で東南方言の分析に基づく比較方言文法の観点が有用であることを主張した。

第2章では、授与から受益への文法化について取り上げた。受益表現に関わる授与動詞の用法を本動詞型、補助動詞型、受給者後置型、受益者前置型、動詞句直前型の5種類に分類し、それぞれの形式の意味と機能について詳細な分析を行った。本動詞から補

助動詞、前置詞さらに動詞句直前用法へと至る文法化のプロセスを検証するとともに、東南方言の授与動詞には一部の例外を除いて受益者を導く前置詞の機能がないことを明らかにした。

第3章では授与から使役への文法化について分析を行った。呉語の寧波方言と閩語の福州方言を取り上げ、この二つの東南方言と共通語とを比較することにより、中国語における受益と使役の繋がりが明らかにした。共通語の授与動詞が授与使役に限定されているのに対して、寧波方言や福州方言では許容使役にまでその表現範囲を拡げている状況を述べた上で、東南方言には許容使役のための使役標識が存在せず、このことが授与動詞の文法化を促進したことを明らかにした。

第4章では、第3章の考察をふまえて、授与から受動への文法化について考察した。東南方言の授与動詞が、授与使役から許容使役を経て受動標識へと至る文法化のプロセスを詳細に検討し、東南方言における授与と受動の繋がりが解明されるとともに、授与動詞を用いた受動文がなぜ東南方言に多く、北方方言に少ないのかという疑問に対し、ひとつの答えを提示した。即ち、東南方言には許容使役を表すための使役標識が存在しないため、授与動詞が許容使役標識へと文法化を遂げた。このことが、受動標識への文法化をもたらした原因であることを主張した。

第5章では、授与から処置への文法化について取り上げた。授与動詞を用いた処置文が東南方言の北部に集中して観察されることを指摘した上で、当該地域において広く観察され、ひとつの文の中で、授与動詞を二回繰り返して用いる受益文が、処置文へと拡張していく文法化のプロセスを、豊富な方言資料をもとに解明した。授与から処置への文法化とは、位置的变化から物理的变化への文法化に他ならないことを主張し、「与える」という意味の授与動詞がなぜ処置文を構成できるのかという問題に対して、先行研究とは異なる新たな解釈を示した。

最後の第6章では、本論文のまとめとして、授与動詞の文法化のプロセスと有標ヴォイス構文のネットワークを総括した。中国語の授与動詞には、潜在的に主題 (Theme) と着点 (Goal) という二つの意味役割を導く機能があること、即ち授与物であるモノを導く役割と、その受取手である人を導く役割があることを指摘し、そこからさまざまなヴォイス標識へと至る文法化のプロセスを明らかにした。

4. 結論

本研究は、受益文や受動文、使役文、処置文といった有標ヴォイス構文において、ヴォイス標識の役割を担う授与動詞がどのような文法化のプロセスを経てその機能を獲得したのかを中心に、中国語における授与動詞とヴォイス構文の関連について考察した。同一の形態素がなぜさまざまなヴォイス標識の機能を担うのかという問題に対して、東南方言の資料を活用することによって、比較方言文法の観点から分析を行った。

分析を通して明らかになったのは、授与動詞とヴォイス構文の関連を理解する上で、次のような形式の受益文がきわめて重要な意味を持つということである。本研究が取り上げたヴォイス構文の多くは、この形式からの拡張であると考えられる。

(21) GIVE₁ + Theme + GIVE₂ + Goal

この形式は、中国語の授与動詞には、潜在的に主題 (Theme) と着点 (Goal) という二つの意味役割を導く機能があることを示している。つまり、授与動詞には、授与物であるモノを導く役割と、その受取手である人を導く役割があるということである。一文中に二つの授与動詞が同時に現れる文を許容するか否かは地域ごとに制限が異なるが、中国語の授与動詞にとって、モノと人という二つの異なる意味役割を導く機能があることを認識しておくことは重要である。以下、各章で取り上げたこの形式に関わりのある構文についてまとめる。

第2章では、粵語タイプの二重目的語文を取り上げた。共通語と語順が異なる以下のような二重目的語文は、特定の地域に限って成立するものではなく、東南方言の各地に広く観察されることを指摘した。

(22) 佢 畀 三 部 书 我。 [粵語・廣州]

he GIVE three CLA book me

(彼はぼくに本を三冊くれた。) 黄伯荣主编 1996

(23) 分 一 本 书 佢。 [客家語・连城]

GIVE a CLA book him

(彼に本をあげる。) 项梦冰 1997

(24) 你 明天 买来, 我就得钱你。 [湘語・衡陽]

you tomorrow buy-come I just GIVE money you

(おまえが明日買ってきたら、金をやろう。) 李永明 1986

(25) 伊 拨 仔 本 书 我。 [吳語・上海]

he GIVE ASP CLA book me

(彼はぼくに本をくれた。) 劉堅 1997

間接目的語が直接目的語の後ろに表示されるこのタイプの二重目的語文は、以下に示すように、一文中に二つの授与動詞が同時に現れる受益文から、受給者を導く授与動詞が省略された形式であると考えられる。

(26) 佢 畀 三 部 书 (畀) 我。 [粵語・廣州]

he GIVE three CLA book GIVE me

(彼はぼくに本を三冊くれた。)

つまり、粵語タイプの二重目的語文とは、(21)の構造から GIVE₂ が省略されたものと理解されてよい。

(21) GIVE₁ + Theme + (GIVE₂) + Goal

第3章では、授与動詞を用いた使役文の分析を行った。授与動詞を用いる使役文は、授与行為を通して被使役者に直接的に働きかける授与使役の状況しか表すことができない。このことを指摘した上で、授与使役文とは、受給者後置型の受益文に動詞が付加された連動構造から、授与行為の実現のために行った手段を表す部分を省略した文であることを示した。

- (27) 他 (送 本 书) 给 我 看。 [共通語]
he present CLA book GIVE me read
(彼は本を一冊プレゼントしてぼくに読ませてくれた。)

授与使役文を受給者後置型の受益文からの拡張とみなす理由の一つには、閩語の福州のように、使役者が行った具体的な手段を文法的に明示しなければならない地域が存在することがある。

- (28) 伊 * (送 本 书) 乞 我 看。 [閩語・福州]
he present CLA book GIVE me read
(彼は(本を一冊プレゼントして)ぼくに読ませてくれた。)

福州のような地域を例外として扱うのではなく、各地の授与使役文を統一して説明しようとするならば、授与使役文は受給者後置型の受益文から拡張した形式と分析されるべきである。また、このような分析は、各地の授与使役文に共通して観察される、被使役者が受取手としての性質を備えていなければならないという、このタイプの使役文に備わる意味的特徴についても構造的な根拠を与えることになる。

その構造に注目すれば、受給者後置型の受益文は、〈手段〉＋〈目的〉タイプの連動構造であるという点で(21)の形式と共通している。次の対比が示すように、受給者後置型の受益文が成立するためには、授与のための〈手段〉が明示されなければならない。

- (29) a. 你 买 件 毛衣 给 我。 [共通語]
I buy CLA sweater GIVE me
(セーターを買ってください。)
- b. *你 洗 件 毛衣 给 我。 [共通語]
I wash CLA sweater GIVE me
(セーターを洗ってください。)

“买件毛衣 (セーターを買う)” という行為は、“给我 (私に与える)” という〈目的〉の〈手段〉となりえるが、“洗件毛衣 (セーターを洗う)” という行為は、授与の〈手段〉

とはなり得ないのである。

このことは、(21)の形式についても同様にあてはまる。

(30) GIVE₁ + Theme + GIVE₂ + Goal =(21)

把 本 书 把 我。 [贛語・黎川]
GIVE CLA book GIVE me
(ぼくに本をくれ。) 顔森 1993

“把本书(本を与える)”という〈手段〉を通して、“把我(私に与える)”という〈目的〉を実現しているという点で、受給者後置型の受益文と共通している。二つの GIVE が一文中に同時に現れる(21)は、受給者後置型の受益文と同様に、〈手段〉+〈目的〉タイプの連動構造を構成する受益文であると理解されてよい。

第4章では、授与動詞を用いた受動文について考察した。本研究は、授与から使役を経由して受動に至るという蒋绍愚 2002 をはじめ、杨凯荣 2015 らが主張する文法化のプロセスを支持する。その上で、それらが東南地域に集中して観察される原因は、共通語の“让”に相当する許容使役のための使役標識が存在しなかったことにあるという解釈を示した。

閩語の福州や呉語の寧波(宁波)では、授与動詞を用いた東南方言の使役文が、必ずしも授与使役に限定されず、許容使役をもその使用範囲に含んでいることを第3章において明らかにした。こうした現象は、二つの地域に限らず、東南方言の各地で広く観察された。

(31) 我 拨 伊 早歇 归 去。 [吴語・绍兴]
I GIVE him quickly back-go
(ぼくは彼に早く帰らせた。)

(32) 妈 拍 电话 互 伊 出 来。 [闽語・厦門]
mother hit telephone GIVE him out-come
(母は電話をかけて彼に出て来させた。)

(33) 佢 分 你 去 办公室。 [客家語・桃園]
he GIVE you go office
(彼はあなたをオフィスへ行かせた。)

(34) 佢 畀 我 去 机场。 [粵語・广州]
he GIVE me go airport
(彼はぼくを空港に行かせた。)

授与使役に限定されない東南方言の授与動詞は、共通語のそれに比べて、使役標識としての文法化が進んでいるということが出来る。このような現象をもたらした原因は、

東南方言が専ら許容使役を表すための使役標識を持たなかったことにあると考えられる。共通語の“让”に相当する使役標識が存在しなかったことが、東南方言の授与動詞の使役標識としての文法化を促進し、結果として許容使役の機能をもたらした。許容使役の機能を獲得した東南方言の授与動詞は、そこからさらに文法化を遂げて、受動標識の機能を獲得したと考えられる。

授与から受動への文法化をこのように分析することによって、授与動詞を用いた受動文がなぜ東南方言に多く、北方方言に少ないのかという問題についても、無理のない解答を与えることが可能になる。北方方言には許容使役のための“让”がある。そのため、授与動詞の文法化は授与使役にとどまり、許容使役の機能を獲得するには至らなかった。一方、東南方言には、“让”に相当する許容使役のための使役標識が存在しない。そのため、その穴を埋める形で授与動詞が許容使役へと文法化を遂げた。両者を分けた原因は、許容使役標識の有無である。その結果、許容使役の機能を獲得した東南方言の授与動詞は、受動標識へとさらなる文法化を遂げることになったのである。

授与動詞を用いた受動文は東南方言に多いことを指摘する先行研究は多いが、なぜ多いのかという理由に答えた研究はこれまでなかったように思われる。許容使役標識の不在を原因とみる本研究の分析は、この問題に対する初めての解釈を示したといえる。また、複数の東南方言の資料に基づいて、授与動詞が授与使役から許容使役を経て受動へと至る文法化のプロセスを示したことで、少なくとも口語のレベルでは、中国語の受動文は南北をとわず、使役から受動へという他の言語にも多く観察される一般性の高い文法化によって成立していることが明らかとなった。

ここまでは受給者を導く GIVE₂ の文法化、すなわち人を導く授与動詞の文法化であった。第5章で取り上げた授与から処置への文法化は、受給物を導く GIVE₁ の文法化、すなわちモノを導く授与動詞の文法化である。

一文中に二つの授与動詞が現れる(21)の形式の受益文は、次のような文法化のプロセスを経て、処置文へと拡張したと考えられる。

- (35) a. GIVE₁ + Theme + GIVE₂ + Goal
 渠 界 一 本 书 界 我。 [徽语・黟县]
 he GIVE a CLA book GIVE me
 (彼はぼくに一冊の本をくれた。)
- b. GIVE₁ + Theme + V + GIVE₂ + Goal
 我 拨 该 本 书 送 拨 依。 [吴语・宁波]
 I GIVE this CLA book present-GIVE you
 (この本を君にプレゼントしてあげる。)
- c. GIVE₁ + Theme + V + Result (Directional)
 把 她们 拖 到 船 上。 [湘语・长沙]

GIVE them pull-arrive ship on
 (彼女たちを船に連れてこい。)

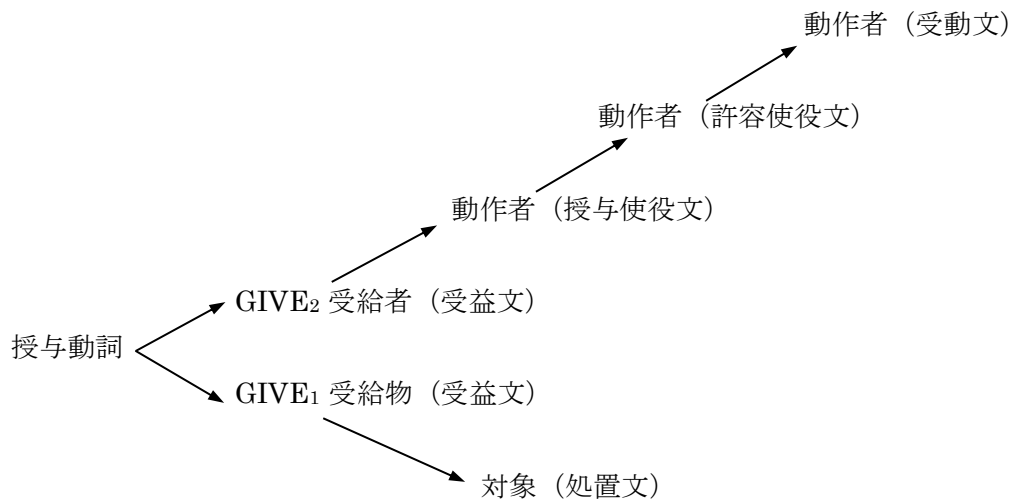
d. GIVE₁ + Theme + V + Result (Stative)

莫 把 茶碗 打破 了。 [贛語・黎川]
 don't GIVE cup hit-broken MOD
 (茶碗を割ってはいけない。)

授与動詞の処置標識とは、文法化を遂げた GIVE₁ に他ならない。つまり、授与物を導く授与動詞が、動作行為の対象を導く機能を獲得したことが、授与から処置への文法化である。言い換えれば、位置的变化の主体であった受給物が、物理的变化の主体へと変わる文法化である。こうしたプロセスを仮定することによって、「与える」という意味の授与動詞がなぜ処置文を構成できるのかという疑問に対して、従来の解釈よりも簡潔で、無理のない説明が可能となる。

以上のことをまとめると、授与動詞がヴォイス標識を担う構文のネットワークは、以下のように示すことができる。

<授与動詞とヴォイス構文のネットワーク>



本研究は、形態変化の乏しい中国語において、さまざまなヴォイス構文がどのように構成されるのか、またそれらがどのようなネットワークを構成しているのかを文法化の観点から考察した。「与える」という意味の授与動詞に複数のヴォイス標識の機能が集中しているのはなぜなのかという問題の解明に比較方言文法の観点から取り組んだ。分析を通して見えてきたことは、木村 2000、2003 のいう「動作者と主語の関係を中心に、名詞表現の意味役割と格表示の対応関係の変更が何らかのかたちで明示的かつ規則的

に反映される現象」に関わる中国語ならではの特徴と多言語にも通じる一般性である。動詞の形態変化という手段を持たない中国語では、意味役割と格表示の対応関係の変更を限られた数のヴォイス標識によって表すことになる。そのため、一つのヴォイス標識に複数の機能が集中することになる。また、ヴォイス標識の多くは動詞が文法化を遂げたものであるため、地域によって選択される動詞が異なったり、文法化のレベルがまちまちであったりする現象が見られる。しかし、一見、地域間の差異が大きいように見えるヴォイス構文も、全体としては整然とした一つのネットワークを構成しており、多言語にも通じる一般性を備えている。授与動詞を中心に取上げた本研究は、ヴォイスに関わる中国語のそうした特徴の一端を明らかにしたにすぎないが、従来の研究が未解決であった問題に対していくつかの新たな解釈を示した。